

大型インフラ事業を対象とする世界最大級の共同投資ファンドへの出資

損害保険ジャパン日本興亜株式会社(社長:二宮 雅也、以下「損保ジャパン日本興亜」)は、三菱商事株式会社が同社子会社を通じて運営する、北米・欧州諸国等における大型インフラ事業を投資対象とするファンド(Japan Infrastructure Investment Partners L.P.、以下「JIIP」)に出資することを決定しました。2012年4月、三菱商事株式会社、株式会社みずほ銀行、他投資家により投資総額12.5億米ドル(約1,500億円)規模で組成されたJIIPに対し、国内保険会社として最大級のインフラ事業への投資となる1億米ドル(約120億円)の出資を行います。

1. 背景

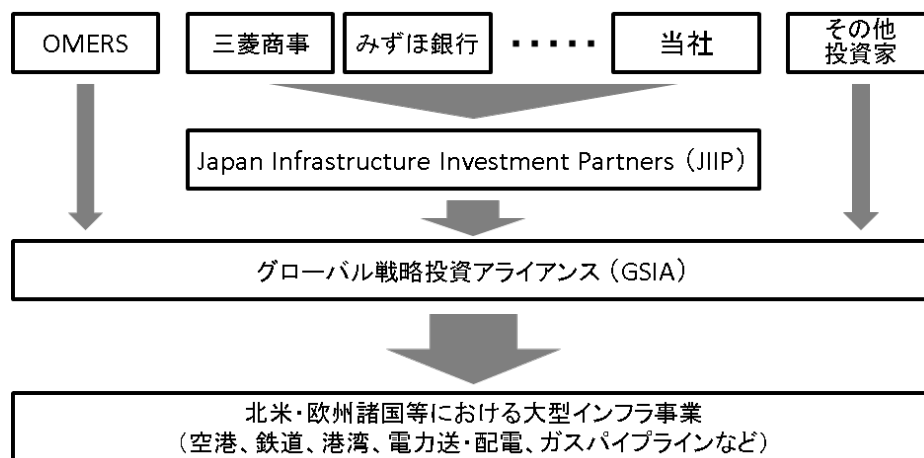
損保ジャパン日本興亜は、インフラ事業への投資を成長分野と位置づけ、低金利下における運用手段の多様化の一環として取り組んでいます。インフラ事業への投資は、社会貢献や収益性の観点から保険会社にふさわしい分野であり、成長分野投資の中核として拡大を目指しています。

2. JIIPについて

JIIPは、カナダ・オンタリオ州の公的年金基金(Ontario Municipal Employees Retirement System、以下「OMERS」*)主導のもと世界最大級となる投資総額125億米ドル(約1兆5,000億円)規模のグローバル戦略投資アライアンス(Global Strategic Investment Alliance、以下「GSIA」)に参画しています。GSIAはインフラ投資家の連合体で、主に北米・欧州諸国等において空港、鉄道、港湾、電力送・配電、ガスパイプラインなど、事業価値にして20億米ドルを超える大型インフラ事業へ投資を行います。

*1962年に設立されたカナダ・オンタリオ州公務員年金基金で、運用総額620億米ドル(2014年12月末時点)、インフラ事業への投資規模は124億米ドルと年金基金のなかでトップクラスの実績を誇ります。

<スキーム概念図>



3. 今後について

世界有数の実績を持つOMERSとともに良質なインフラ事業へ投資することを通じ、ネットワーク構築やノウハウ蓄積を図りつつ、需要拡大が続くインフラ事業に対する投資促進をサポートしていきます。